

関東信越税理士会長岡支部長賞

あなたのお金が命を救う

長岡市立東中学校

三年 田中 絢菜

忘れもしないあの日。私は救急車という乗り物に一生乗らな
いと思っていた。目に見える赤いライト。心配する両親の声。なん
といても心強い救急隊の皆さんの顔は今でも鮮明に覚えている。

二年前の夏の暑い休日。セミの鳴き声が外から聞こえてくる
中、私は初めての中学校生活に慣れず頭を抱えていた。進路の
進みが早い学習や部活動での友情関係、自分の思い通りにいか
ず、

「自分なんてだめなんだこの世に必要ないんだ。」

薄暗い考えに気が病み、自分が嫌いになっていく。急に襲う激し
い頭痛、それと同時に息がだんだんと荒くなる。初めての経験で
心と体がうまく連動しない。そう私は過呼吸になっていたのだ。
家族が急いで通報し、あつという間に家の前でサイレンを鳴らし
た救急車がきた。救急隊の方々が総合病院への配慮ややさしく
声をかけてくださったおかげで私は命に別状もなく一命をとり
とめた。もし、救急車が存在していなかったらと考えると血の気
が引く。

現在、日本では救急車の出勤回数が年間約七〇〇件までのば
っている。行政サービスの一環である救急車は救急隊の人員費や
救急車のガソリン代、緊急車内に設置されている医療機器など

の費用は全て市区町村などの自治体の税金が使われている。一
回の救急にかかる費用は大体四万円程、年間約三千億円が使
われている。あれから父は口ぐせのように、

「本当に税金を払ってよかったです。」

と言う。もし救急の時税金がきかなかつたらどうなっているのか
気になり、私はインターネットで検索してみることにした。エンタ
ーキーを押すと同時に私の目の前に表示された画面は実におど
ろくものであった。それは一回の利用料を救急隊に先払いしなけ
ればならないという内容であった。利点はあるのかと疑問に思い
下へスクロールしてみると、アメリカ救急車税金一切負担なしと
いう記事が出てきた。内容を読んでみると、自分の健康は自分で
守るものだから税金には頼らないという内容であった。私はこの
記事を読み、町中に貼ってある本当に緊急ポスターを思い出した。
このポスターは近年日本でむしろ刺されなどの軽症や病院を待ち
たくない等の理由でタクシー代わりに救急車を呼ぶ人が増加し
ている問題を改善させようと発布されたポスターだ。税金によっ
て助けられている命は山程ある。しかし自分の払った税金が望む
べき物に利用されなかった時あなたはと思うだろう。

税金は私達の暮らしを豊かにするため、大切な命をみんな
で繋ぐ必要不可欠なものだ。税金がないと不便になり、税金を無
駄に利用するとバランスがとれなくなる。だから今、私達が税金
について理解を深めなければならぬのではないか。私達は社会
をになう、未来の一人だから。